

2020/10/16

柏の景気情報（令和2年9月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報(令和2年9月分)

○ 調 査 期 間 : 令和2年9月25日 ～ 令和2年10月9日

○ 調 査 対 象 : 柏市内132事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全 産 業	132	90	68.2%
建 設	33	17	51.5%
製 造	35	25	71.4%
卸・小売	39	29	74.4%
サービス	25	18	72.0%

○ 調 査 方 法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回 答 欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味着する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和2年9月の業況についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲43.5(前月水準▲53.8)となり、マイナス幅が10.3ポイント縮小した。

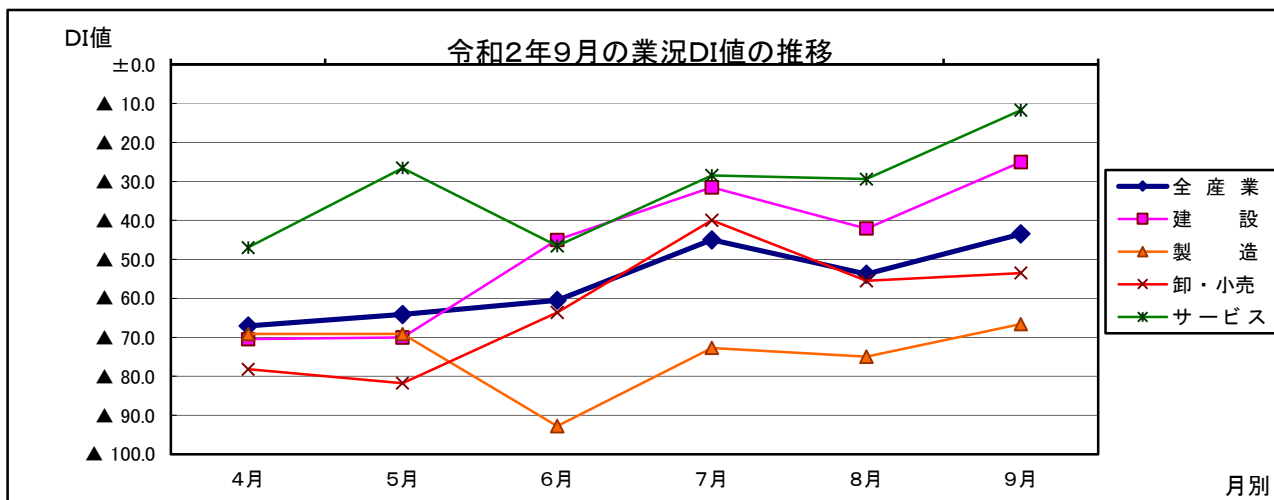
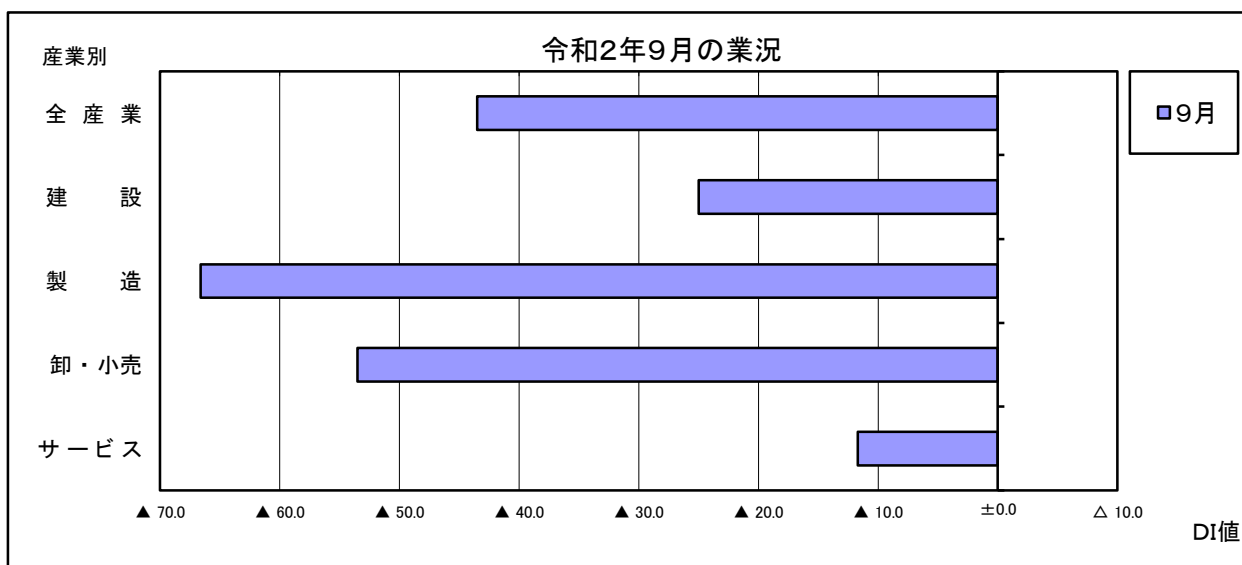
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲11.7(同▲29.4)、建設業▲25.0(同▲42.1)、製造業▲66.6(同▲75.0)、卸小売業▲53.5(同▲55.5)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.5(前月水準▲29.6)となり、マイナス幅が6.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲28.5(同▲40.7)、建設業▲6.2(同▲15.7)、サービス業▲11.7(同▲17.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲37.5(同▲35.7)である。

令和2年9月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月～12月(9月～11月)
全産業	▲67.1	▲64.2	▲60.5	▲45.0	▲53.8	▲43.5	▲23.5(▲29.6)
建設	▲70.5	▲70.0	▲45.0	▲31.5	▲42.1	▲25.0	▲6.2(▲15.7)
製造	▲69.2	▲69.2	▲92.8	▲72.7	▲75.0	▲66.6	▲37.5(▲35.7)
卸・小売	▲78.2	▲81.8	▲63.6	▲40.0	▲55.5	▲53.5	▲28.5(▲40.7)
サービス	▲47.0	▲26.6	▲46.6	▲28.5	▲29.4	▲11.7	▲11.7(▲17.6)



【令和2年9月の売上についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲37.6(前月水準▲46.1)となり、マイナス幅が8.5ポイント縮小した。

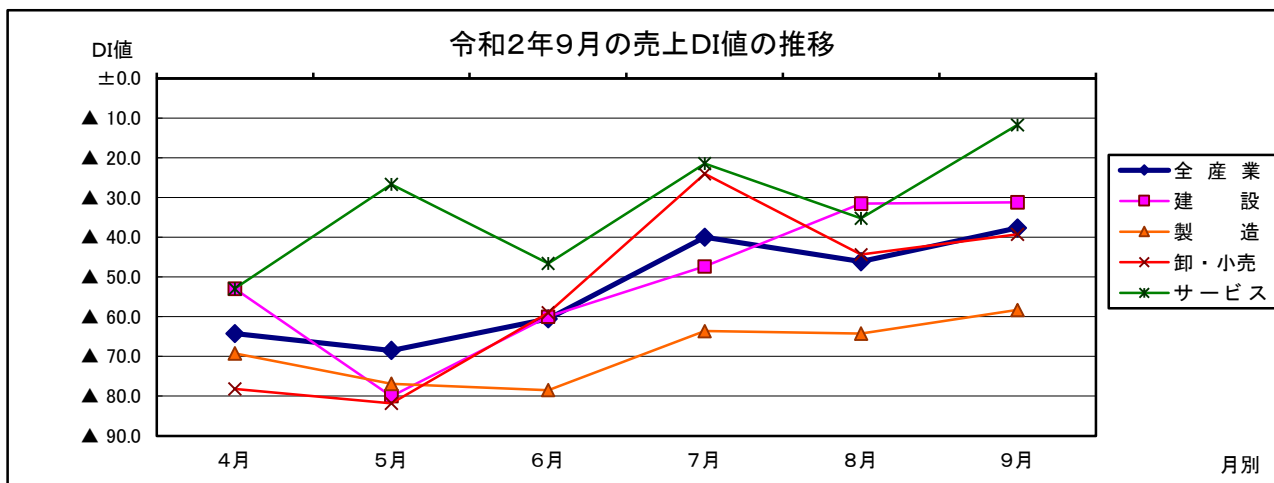
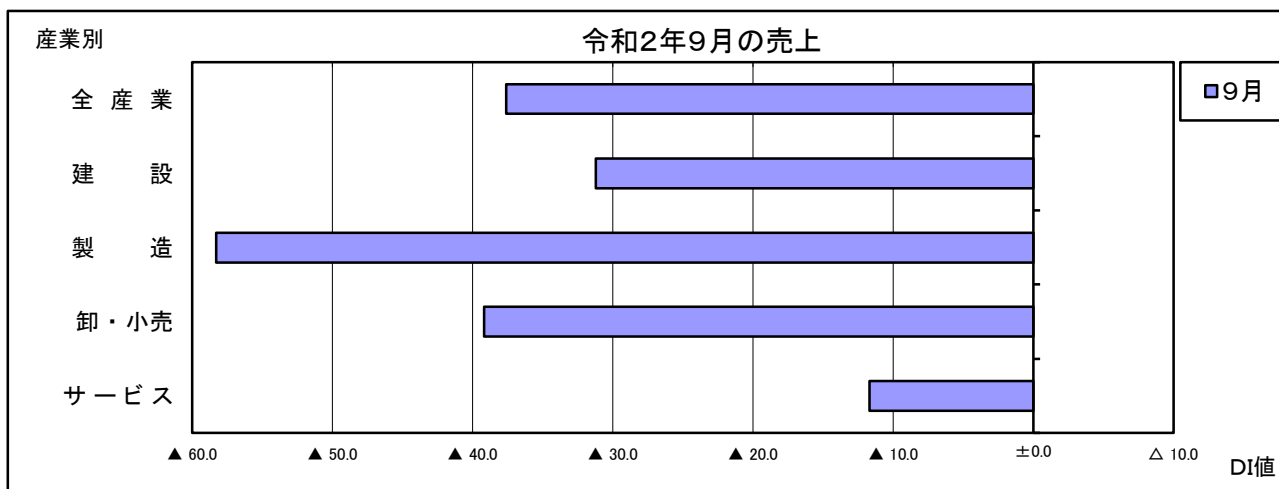
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲11.7(同▲35.2)、製造業▲58.3(同▲64.2)、卸小売業▲39.2(同▲44.4)、建設業▲31.2(同▲31.5)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.4(前月水準▲23.0)となり、マイナス幅が13.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△29.4(同△11.7)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△12.5(同▲15.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲32.1(同▲40.7)、製造業▲25.0(同▲32.1)である。

令和2年9月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月～12月(9月～11月)
全産業	▲64.2	▲68.5	▲60.5	▲40.0	▲46.1	▲37.6	▲9.4(▲23.0)
建設	▲52.9	▲80.0	▲60.0	▲47.3	▲31.5	▲31.2	△12.5(▲15.7)
製造	▲69.2	▲76.9	▲78.5	▲63.6	▲64.2	▲58.3	▲25.0(▲32.1)
卸・小売	▲78.2	▲81.8	▲59.0	▲24.0	▲44.4	▲39.2	▲32.1(▲40.7)
サービス	▲52.9	▲26.6	▲46.6	▲21.4	▲35.2	▲11.7	△29.4(△11.7)



【令和2年9月の採算についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.0(前月水準▲52.7)となり、マイナス幅が12.7ポイント縮小した。

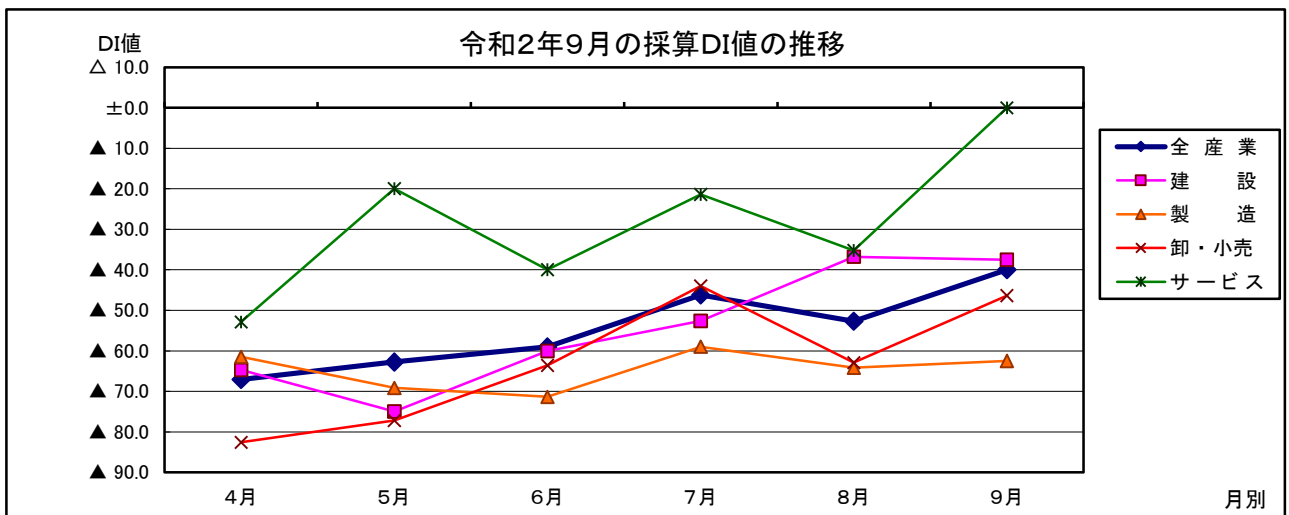
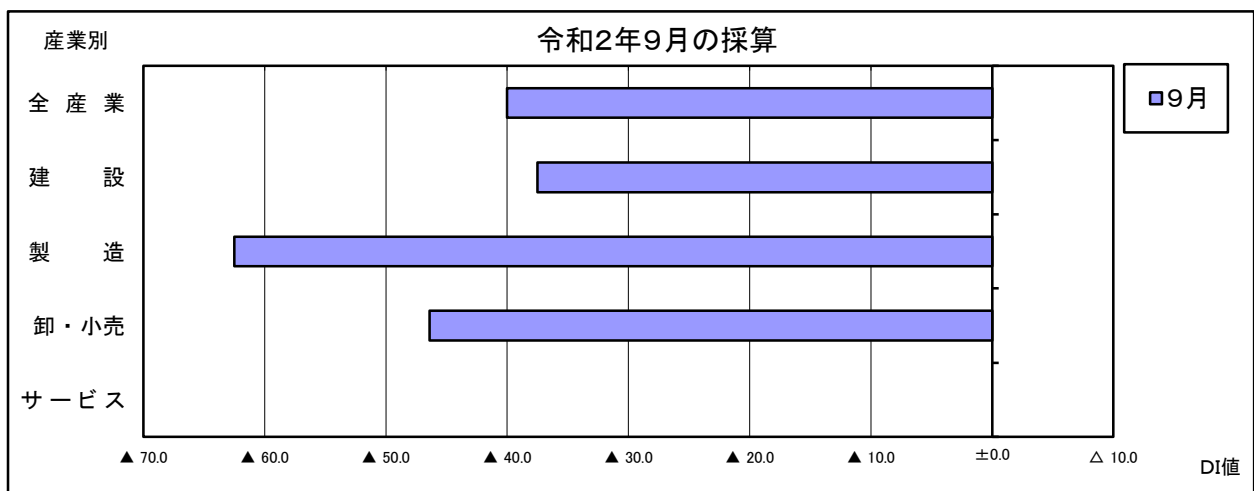
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲35.2)、卸小売業▲46.4(同▲62.9)、製造業▲62.5(同▲64.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲37.5(同▲36.8)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.6(前月水準▲23.0)であり、マイナス幅が5.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲21.0)、製造業▲25.0(同▲28.5)、卸小売業▲39.2(同▲40.7)である。変わらない見通しの業種は、サービス業△11.7(同△11.7)である。

令和2年9月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月～12月(9月～11月)
全産業	▲67.1	▲62.8	▲59.1	▲46.2	▲52.7	▲40.0	▲17.6(▲23.0)
建設	▲64.7	▲75.0	▲60.0	▲52.6	▲36.8	▲37.5	±0.0(▲21.0)
製造	▲61.5	▲69.2	▲71.4	▲59.0	▲64.2	▲62.5	▲25.0(▲28.5)
卸・小売	▲82.6	▲77.2	▲63.6	▲44.0	▲62.9	▲46.4	▲39.2(▲40.7)
サービス	▲52.9	▲20.0	▲40.0	▲21.4	▲35.2	±0.0	△11.7(△11.7)



【令和2年9月の仕入単価についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.3(前月水準▲15.3)となり、マイナス幅が7.0ポイント拡大した。

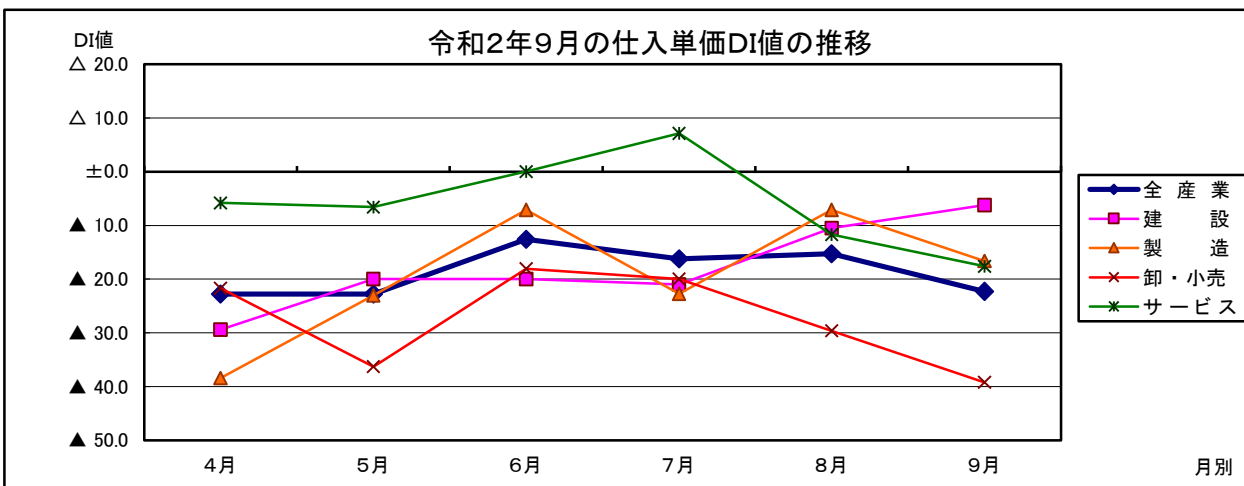
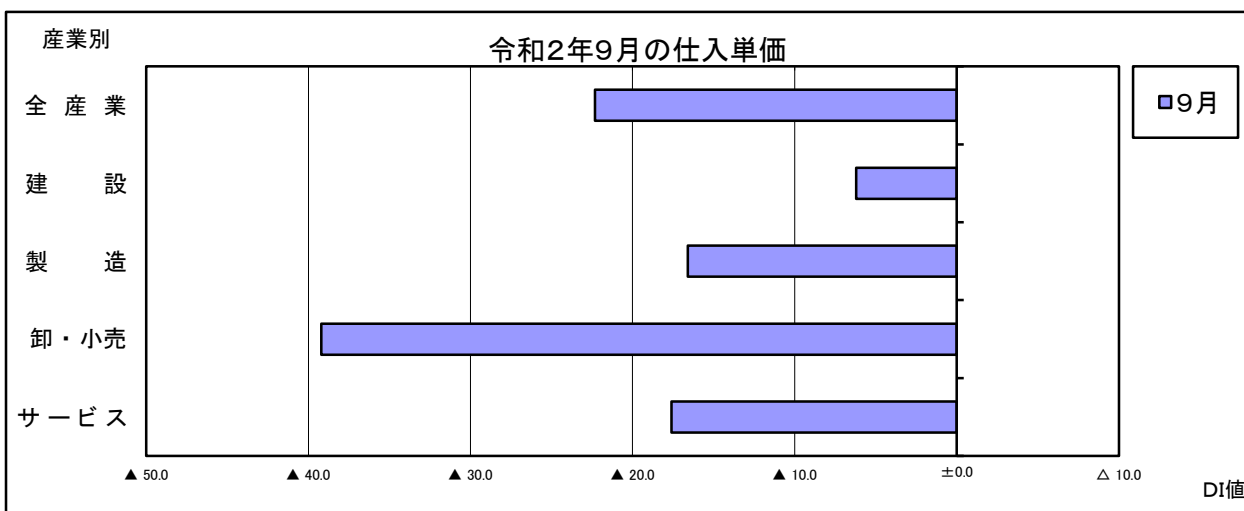
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲6.2(同▲10.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲39.2(同▲29.6)、製造業▲16.6(同▲7.1)、サービス業▲17.6(同▲11.7)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.8(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が4.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△4.1(同▲7.1)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲17.8(同▲25.9)である。変らない見通しの業種は、サービス業△5.8(同△5.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲12.5(同▲5.2)である。

令和2年9月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月～12月(9月～11月)
全産業	▲22.8	▲22.8	▲12.6	▲16.2	▲15.3	▲22.3	▲5.8(▲9.8)
建設	▲29.4	▲20.0	▲20.0	▲21.0	▲10.5	▲6.2	▲12.5(▲5.2)
製造	▲38.4	▲23.0	▲7.1	▲22.7	▲7.1	▲16.6	△4.1(▲7.1)
卸・小売	▲21.7	▲36.3	▲18.1	▲20.0	▲29.6	▲39.2	▲17.8(▲25.9)
サービス	▲5.8	▲6.6	±0.0	△7.1	▲11.7	▲17.6	△5.8(△5.8)



【令和2年9月の従業員についての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△1. 1(前月水準△3. 2)となり、プラス幅が2. 1ポイント縮小した。

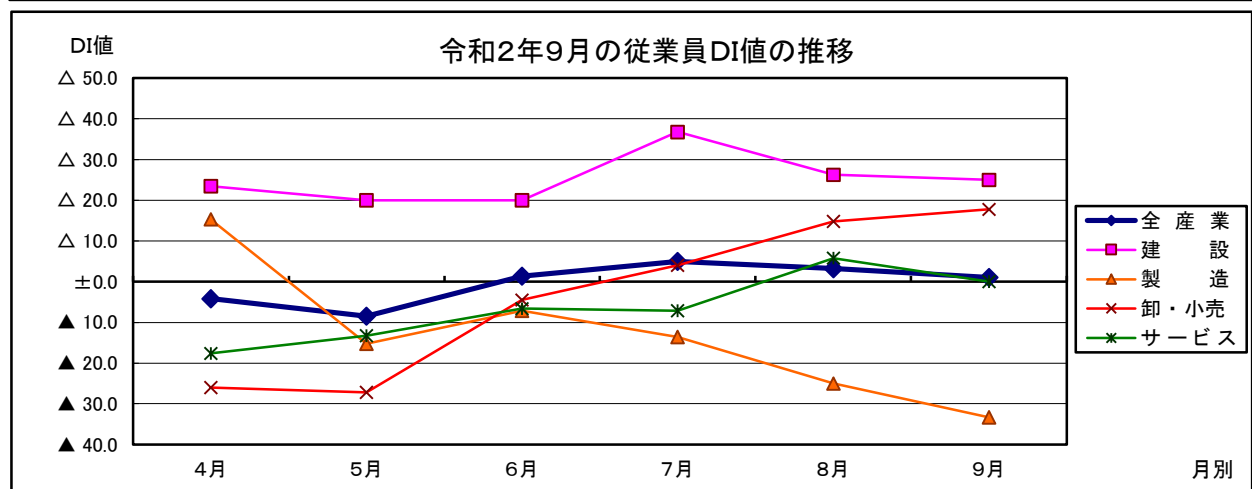
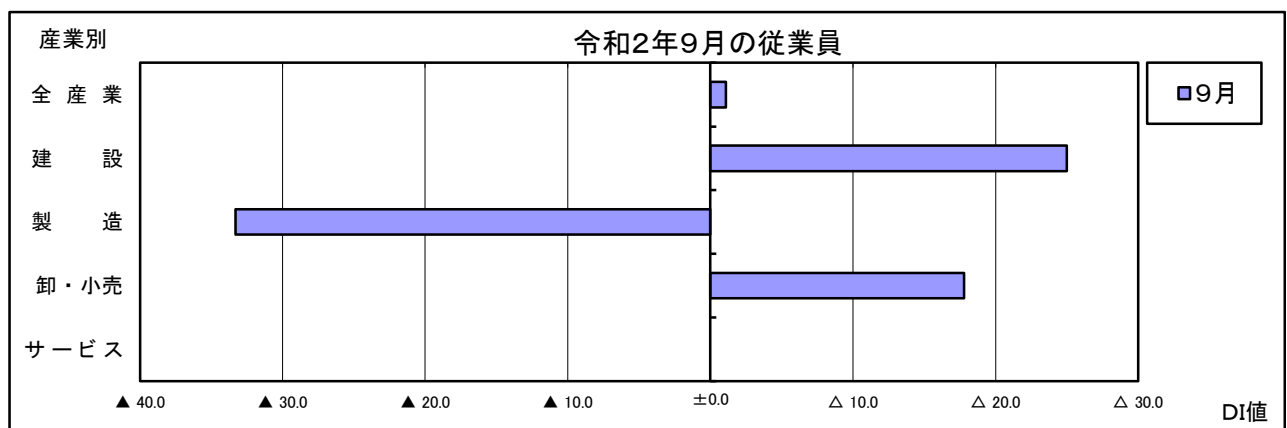
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、卸小売業△17. 8(同△14. 8)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0. 0(同△5. 8)、建設業△25. 0(同△26. 3)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲33. 3(同▲25. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、△1. 1(前月水準△4. 3)となり、プラス幅が3. 2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△25. 0(同△10. 5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△5. 8(同△17. 6)、卸小売業△17. 8(同△22. 2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲37. 5(同▲25. 0)である。

令和2年9月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月～12月(9月～11月)
全 産 業	▲ 4.2	▲ 8.5	△ 1.4	△ 5.0	△ 3.2	△ 1.1	△ 1.1 (△ 4.3)
建 設	△ 23.5	△ 20.0	△ 20.0	△ 36.8	△ 26.3	△ 25.0	△ 25.0 (△ 10.5)
製 造	△ 15.3	▲ 15.3	▲ 7.1	▲ 13.6	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 37.5 (▲ 25.0)
卸・小売	▲ 26.0	▲ 27.2	▲ 4.5	△ 4.0	△ 14.8	△ 17.8	△ 17.8 (△ 22.2)
サ ー ビ ス	▲ 17.6	▲ 13.3	▲ 6.6	▲ 7.1	△ 5.8	±0.0	△ 5.8 (△ 17.6)



【令和2年9月の資金繰りについての状況】

○ 9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17. 6(前月水準▲27. 4)となり、マイナス幅が9. 8ポイント縮小した。

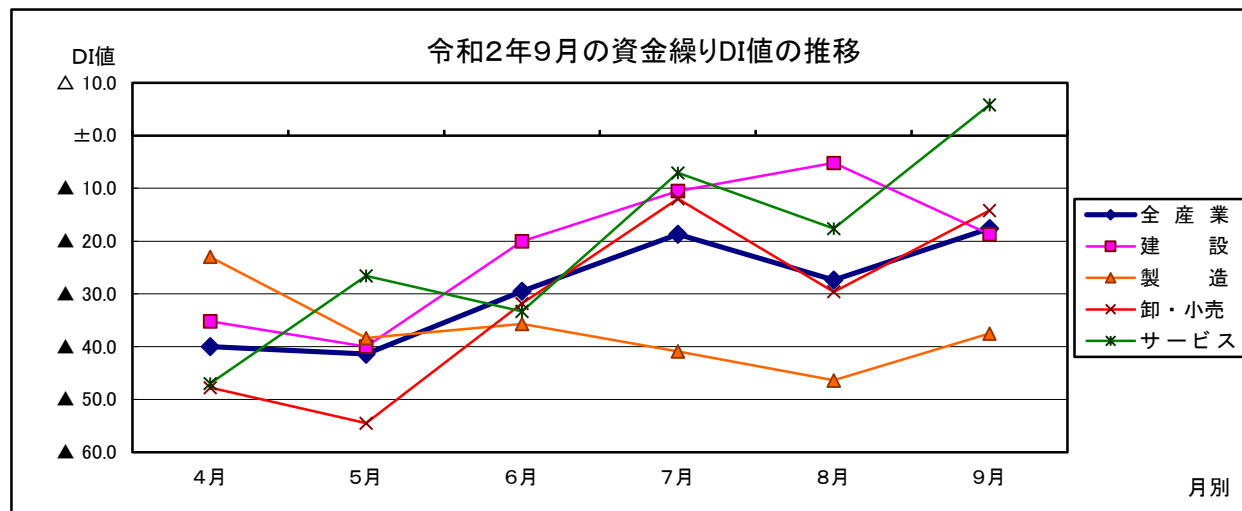
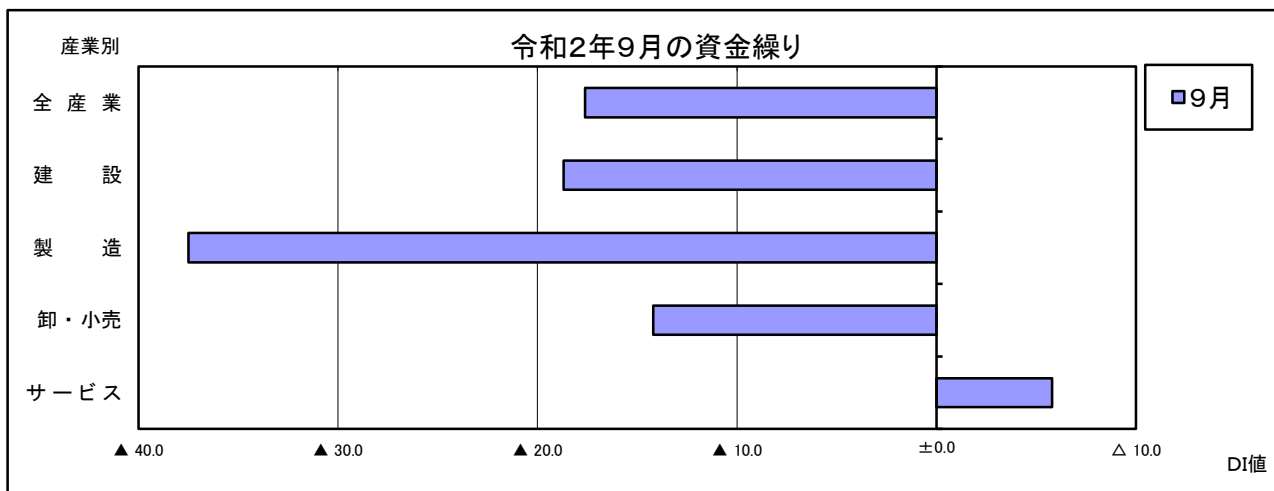
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△5. 8(同▲17. 6)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲14. 2(同▲29. 6)、製造業▲37. 5(同▲46. 4)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲18. 7(同▲5. 2)である。

○ 向こう3ヶ月(10月から12月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20. 0(前月水準▲14. 2)となり、マイナス幅が5. 8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0. 0(同▲5. 8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲41. 6(同▲28. 5)、卸小売業▲21. 4(同▲14. 8)、建設業▲6. 2(同±0. 0)である。

令和2年9月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和2年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10月～12月(9月～11月)
全 産 業	▲ 40.0	▲ 41.4	▲ 29.5	▲ 18.7	▲ 27.4	▲ 17.6	▲ 20.0 (▲ 14.2)
建 設	▲ 35.2	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 10.5	▲ 5.2	▲ 18.7	▲ 6.2 (±0.0)
製 造	▲ 23.0	▲ 38.4	▲ 35.7	▲ 40.9	▲ 46.4	▲ 37.5	▲ 41.6 (▲ 28.5)
卸・小売	▲ 47.8	▲ 54.5	▲ 31.8	▲ 12.0	▲ 29.6	▲ 14.2	▲ 21.4 (▲ 14.8)
サ ー ビ ス	▲ 47.0	▲ 26.6	▲ 33.3	▲ 7.1	▲ 17.6	△ 5.8	±0.0 (▲ 5.8)



【令和2年9月の調査結果のポイント】

《全産業DIは改善するも、新型コロナウイルスの影響による厳しさは残る。景況感改善を期待する声が多い》

9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲43.5(前月水準▲53.8)となり、マイナス幅が10.3ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲11.7(同▲29.4)、建設業▲25.0(同▲42.1)、製造業▲66.6(同▲75.0)、卸小売業▲53.5(同▲55.5)である。

新型コロナウイルス感染再拡大が若干の落ち着きを見せてきたことから、外出自粛ムードが多少緩和している様子。公共工事は堅調で、食料品も好調を維持している。しかし、業種によって回復に差が見られ、製造業は安定した受注が見込めず先行き不透明な状況。小売業は食料品を除く消費に力強さは感じられず、飲食業は年末に向けた宴会需要の見込みが薄い。

先行き見通しDIは▲23.5(今月比+20.0)であり、政府の需要喚起策「GoToキャンペーン」等により景況感の改善を期待する声は増している。

【建設業】からは、「大型物件は受注できたが、ハウスメーカー等の継続的な案件が減少。定期的案件も、受注が2か月ほど遅れている」(電気工事)、「人手不足が解消できず、仕事の発注はあるが断っている状態」(とび)、「コロナ禍でも工事は例年並。公共工事の発注数は昨年よりも多い。学校関係は少なくなった」(塗装工事)、「修理等、細々とした問い合わせが増えてきた。台風に備えて窓回りや、耐震の問い合わせも微増している」(一般土木建築工事)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「年内は雇用調整助成金や持続化給付金で雇用を維持できそうだが、しっかりと利益を生み出さなければ来年は分からない。社内体制を整え、確実に収益が出るよう改善を進める」(金属製品)、「化粧品容器、医療品容器共に回復のめどが立たず」(プラスチック加工)、「今後「Go Toイベント」「Go To商店街」に期待」(印刷)、「9月は生活雑貨メーカーから特注があり伸びたが、来月以降は不透明な情勢が続くと予想」(プラスチック製品)、「一部社員の手が空く状態で、研修会等で新規スキル教育を実施。仕事量の確保が課題」(金属加工機械)、「観光地の土産商品の状況が悪いが、国による経済対策を期待」(鉄鋼)、「細かい仕事は出始めたが固定経費まで達せず。資金繰りは継続して悪化」(印刷)、「社内のネット環境を見直しデジタル化を図るも、トラブルが頻発。ハード、ソフト両面の大規模更新が必要となり、思わぬ設備投資が必要になった」(自動車付属品)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「客数は減少する一方、客単価は上昇の傾向で、売上は前年比▲20%、入店客数▲25%。10月以降は好転を見込むが楽観できない」(百貨店)、「テイクアウトは伸びるも、イベント特注は落ち込んだまま」(食料品小売)、「食品は依然として売上が伸び、経常利益も良い反面、関連会社の飲食店は9月で閉店」(各種食料品小売)、「市内飲食店の売上が激減した影響で15~20%の売上減。取引の中心は量販店、百貨店テナントの小売に。補助金、融資を申請し当面の資金繰りに支障ないが、低金利でも借入が増える事が不安」(農畜産物・水産物卸売)、「ほぼ前年同期並。コロナ感染者情報が来店者数にすぐ影響」(各種食料品小売)、「昨年は増税前の駆け込みで高額品が売れたため、昨年からの落ち込みが大きい。衣料品・服飾品は回復せず、食料品は好調。飲食は回復傾向」(各種商品小売)、「正社員募集に、有資格の50歳前後の応募が殺到した」(建築材料卸売)、「連休は人出が増えていたが、衣料品は変わらず厳しい状況。食品は贅沢品も売れる」(大型小売店)、「毎年9月は「創業祭」としてイベントを開催していたが今年は中止に。年末は縮小しても行いたい」(各種商品小売)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「IT関連技士に加え通信工事技術士が足りず、人手不足は深刻」(ソフトウェア)、「家賃支援給付金は要件が厳しい。見直しを求む」(不動産賃貸)、「ドライバー不足が深刻。運賃の適正化を図る事が急務」(一般貨物自動車運送)、「例年9、10月は売上が上昇していたが、今年は横ばい。顧客数の増加と単価の上昇が課題」(広告代理)、「8月頃から新規入会者が増えたが、昨年同レベルまで回復せず」(学習塾)、「Go To Eatキャンペーンによる客数の回復に期待するが、宴会予約がない分、前年より売上が大幅減少するのは避けられない」(日本料理)、「従業員が揃えば最後まで販売を続ける事ができるが、欠員が出ると生産が間に合わず一部販売が終わってしまい、全てがマイナスに」(食堂・レストラン)、「現在は出前館を利用しているが、自社でデリバリーできるよう調整中。軽自動車であればパートに配達をお願いできる」(食堂・レストラン)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
4月	▲67.1	▲70.5	▲69.2	▲78.2	▲47.0
5月	▲64.2	▲70.0	▲69.2	▲81.8	▲26.6
6月	▲60.5	▲45.0	▲92.8	▲63.6	▲46.6
7月	▲45.0	▲31.5	▲72.7	▲40.0	▲28.5
8月	▲53.8	▲42.1	▲75.0	▲55.5	▲29.4
9月	▲43.5	▲25.0	▲66.6	▲53.5	▲11.7
見通し	▲23.5	▲6.2	▲37.5	▲28.5	▲11.7

見通しは今月の水準と比較した同3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 37.6	▲ 9.4	▲ 40.0	▲ 17.6	▲ 22.3	▲ 5.8	△ 1.1	△ 1.1
建設	▲ 31.2	△ 12.5	▲ 37.5	±0.0	▲ 6.2	▲ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
製造	▲ 58.3	▲ 25.0	▲ 62.5	▲ 25.0	▲ 16.6	△ 4.1	▲ 33.3	▲ 37.5
卸・小売	▲ 39.2	▲ 32.1	▲ 46.4	▲ 39.2	▲ 39.2	▲ 17.8	△ 17.8	△ 17.8
サービス	▲ 11.7	△ 29.4	±0.0	△ 11.7	▲ 17.6	△ 5.8	±0.0	△ 5.8

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 43.5	▲ 23.5	▲ 17.6	▲ 20.0
建設	▲ 25.0	▲ 6.2	▲ 18.7	▲ 6.2
製造	▲ 66.6	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 41.6
卸・小売	▲ 53.5	▲ 28.5	▲ 14.2	▲ 21.4
サービス	▲ 11.7	▲ 11.7	△ 5.8	±0.0

令和2年9月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲43.5に対し、「CCI-LOBO」が▲56.5で柏の方がマイナス幅が13.0ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲37.6に対し、「CCI-LOBO」が▲55.8で柏の方がマイナス幅が18.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービスであり、卸小売業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業である。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.0に対し、「CCI-LOBO」が▲51.4で柏の方がマイナス幅が11.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.3に対し、「CCI-LOBO」が▲20.5で柏の方がマイナス幅が1.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△1.1に対し、「CCI-LOBO」が△0.9で柏の方がプラス幅が0.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は建設業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.6に対し、「CCI-LOBO」が▲27.6で柏の方がマイナス幅が10.0ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業であり、建設業は10ポイント以上悪い。

【令和2年9月業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	トピック	業種
建設業	修理等、細々した問い合わせが増えてきた。一方、台風に備えて窓回りや、耐震の問い合わせも微増している。	防災設備の問合せ増加	一般土木建築工事業
	今までに経験した事のない状況。先行きが不透明かつ不安。大型物件は受注出来たが、ハウスメーカー等の継続的な案件が減少。定期的案件も、受注時期が2か月ほど遅れている。	先行き不透明 受注減少	電気工事業
	これからの補正予算によって業況も変わってくる。	補正の有無	土木工事業
	今月からスタートしたキャッシュレス決済。JCBカードは、3.95パーセントも手数料料としてとる事にびっくり。個人ではなるべく手数料の安いカードを使った方が、使用したお店のためになると実感。	カード手数料の負担	量工事請負・量製造販売業
	人手不足が解消できず、仕事の発注はあるが断っている状態。利益を出そうにも仕事のできる範囲に変わりはなく、好転に繋がらない。	人手不足	とび
	コロナ禍であるが、工事は例年並。公共工事の発注数は昨年よりも多い。学校関係はあまりなくなったが、他の工事はそれなりにある。	工事発注数例年並	塗装工事業
製造業	間接部門の生産性向上のために社内のネット環境を見直し、情報の共有化、ペーパーレス化等のデジタル化を図っているが、「インターネットに繋がらない」「サーバーにアクセス出来ない」といったトラブルが頻発。ハード、ソフト両面の大規模更新が必要となり、思わぬ設備投資が必要になった。	生産性向上 デジタル化	自動車付属品製造業
	コロナの影響による業績悪化が見られる。	業績悪化	機械・同部品製造業
	不良品返品があり利益を流出させた事に加え、コロナ不況が追い打ちをかけている。年内は雇用調整助成金や持続化給付金等で雇用を維持していけそうだが、来年はしっかりと利益を生み出さないと雇用を守れなくなるおそれがある。今一度社内体制を整え、確実な収益を積み重ねていけるよう改善を進める。	雇用の維持努力	金属製品
	化粧品容器、医療品容器ともに回復のめどが立たず、コロナの影響で営業活動も制限され厳しい状況が続いている。	営業活動の制限	プラスチック加工
	コロナ禍の影響が客足が鈍く、業績の悪化と資金繰りへの苦慮が続いている。	業績悪化	電子応用装置製造業
	新型コロナウイルスによる東京の飲食店の営業時間短縮の影響を受け、8月に引き続き売上、利益ともに悪化。10月より自粛関係が解除されることで、年末に向けて売上の回復を望む。今後は不透明であるが、工場としては必要とされるものを肅々と製造していく。	売上・利益悪化 自粛解除後に期待	酒類製造業
	感染防止対策グッズを企画したが、現状は販売に結びついていない。今後、「Go To イベント」「Go To 商店街」の支援策に期待したい。	Go Toキャンペーンに期待	印刷業
	9月は生活雑貨メーカーからの特注で伸びた。しかし、一時的なもので来月以降は不透明な情勢が続くと予想される。	特注案件による売上増加 先行き不透明	プラスチック製品
	一部社員の手が空く状態で、研修会等で新規スキル教育を実施。仕事量の確保が当面の課題。	人員過剰の状態 仕事量確保が課題	金属加工機械製造業
	依然厳しい状況に変わらないが、若干の上向き傾向。観光地の土産商品の状況は悪いが、国による経済対策で上向き事を期待している。	業況改善傾向	鉄鋼業
卸・小売業	細かい仕事が出始めたが、固定経費まで達せず。資金繰りは悪化し続けている。	資金繰り悪化	印刷業
	客数は減少する一方で、客単価上昇の傾向。売上は前年比▲20%、入店客数▲25%。前年の消費増税の影響で9月は悪化する見通し。10月以降は消費増税反動により好転が見込まれるものの、楽観できない状況は続くと考える。	前年比売上・入店客数減少	百貨店
	ブドウを含めた果実が不作のため、果実価格が高騰している。	経費増加	食料・飲料卸売業
	テイクアウトは伸びているが、イベント等の特注は落ち込んだまま。	テイクアウト売上増加 イベント特注品は減少継続	飲料食品小売業
	食品は依然として売上が伸びており、経常利益も良い。反面、関連会社の飲食店は9月で閉店。今後の生活の変化を真剣に考えなければならない。	売上増加	各種食料品小売業
	市内中心の飲食店売上が激減し、15～20%の売上減少。取引の中心は量販店、百貨店テナントの小売となり、オンラインでの卸・小売、多少動き出してきた輸出事業が支えとなる。いくつかの補助金、融資を申請し、資金繰りは支障なくなったが、低金利といえど借入金が増えることにはいささかの不安がある。	市内飲食店売上減少による影響 量販店売上好調 借入金増加への不安	農畜産物・水産物卸売業
	ほぼ前年同期並。幾分プラス傾向で推移しているが、新型コロナウイルスの感染者情報が来店者数にすぐ影響する。	前年同期並み 感染情報による影響	各種食料品小売業
	私的な体調不良により店舗休業したため、前年比割れとなった。	売上前年比割れ	洋菓子店
	前年は増税前に高額品等の駆け込みがあったため、昨年からの落ち込みが大きい。衣料品・服飾品は回復しないまま。食料品は依然好調を維持し、飲食は今までより回復傾向。	昨年比売上減少 飲食店回復傾向	各種商品小売業
	比較的、新型コロナウイルスの影響はなく、例年と変わりなく営業している。	業況例年通り	洋菓子店
	正社員募集に、有資格の50歳前後の応募が殺到した。	正社員募集	建築材料卸売業
	シルバーウィークは人出が増え、外出自粛ムードがゆるくなった。ただ、店内はマスクをつけている人がほとんどで、予防の意識は変わらない。外出傾向にあっても衣料品にお金をかけないのか、衣料品は変わらず厳しい状況。食品は贅沢品も売れている。	外出自粛ムード緩和 衣料品不調 食品好調	大型小売店
	直近3か月は売上高、入館者数が前年比約65%程度の水準に落ち着いており、この先も同程度で推移すると思う。忘年会、新年会等の宴会は見込めない。	売上、入館者数回復 宴会客見込めず	公衆浴場業
	毎年9月は「創業祭」としてイベント、キャンペーンを開催していたが今年は中止した。年末は縮小しても行いたい。	毎年9月実施のイベント中止	各種商品小売業

【令和2年9月業種別業界内トピックス】

サービス業	IT関連技士が足りないのに加え、関連する通信工事技術士も足りず、人手不足は深刻。	人手不足	ソフトウェア業
	現在は出前館を利用しているが、自社でデリバリーできるよう調整中。バイクではなく軽自動車ならパートに配達をお願いできる。	デリバリー環境構築	食堂・レストラン
	国の家賃補助は要件が厳しい。要件の見直しを求む。	家賃支援給付金	不動産賃貸業
	お客様のところを回っていると、目先では好調な事業者と不調な事業者が入り混じっている。しかし、間違いなく悪化の方へ向かいながら動いていると感じる。政府が景気浮揚対策を打ち始めたが、効果は限定的だと思っている。	先行き不安	税理士
	新型コロナウイルスの影響により、売却相談が増加。1, 500～2, 000万円の比較的低価格の住宅や、マンションの引き合いが増えている。収益物件の融資はどこの金融機関も厳しくなっている。また、一般顧客は自粛が定着している。	売却相談増加 低価格住宅・マンション注文増加	不動産管理業
	ドライバー不足が深刻化している状況。運賃の適正化を図っていくことが急務。	ドライバー不足	一般貨物自動車運送業
	例年9、10月は売上が他の月に比べ例年上昇していたが、今年は例年と違い横ばいだった。そのため、売上、利益共に悪化した。新規の顧客開拓と取り扱い品を増やすことで、減少している分を少し補うことは出来ているが、新型コロナウイルスの影響はまだ続きそう。今後の課題は顧客数の増加と単価の上昇。生産性の向上が鍵となりそう。	売上・利益悪化 顧客数増加と単価上昇が過大	広告代理業
	8月頃から新規入会者が増えてきたが、昨年同レベルまでは生徒数が回復していない。塾生から感染者は出ていないが、近隣の学校で感染者が出ているため、万が一の事態を常に想定した対応(経済産業省管轄の公益社団法人学習塾協会が作成したマニュアルに沿って対応予定)を考えている。	例年ほど生徒数回復せず 感染者が出た場合の対応	学習塾
	採用側の意識の変化が見受けられる。経営者は従業員の雇用を守ってあげようとしているが、守ってもらっている従業員はそのありがたさに気づいていない。	従業員雇用の意識の変化	広告業
	Go To Eatキャンペーンによる客数の回復に期待するが、宴会予約がない分、前年より売上が大幅減少するのは避けられない。	Go To Eatキャンペーンに期待 先行き売上大幅減少の見込み	日本料理
	新型コロナウイルスの影響で事務所、店舗用のテナント募集をしても問い合わせすらあまりない。	テナント募集の反響なし	不動産代理業・仲介業
	学生向け賃貸は厳しいまま。他のレジデンス系は底堅い感じ。商業用テナントは、路面店は工夫次第。その他、地下や空中(2階以上)物件は厳しい印象。	学生向け賃貸物件不調 商業テナントは不調	不動産賃貸・管理業
	従業員が揃えば最後まで販売を続ける事ができるが、欠員が出ると生産高が減り一部販売が終わってしまい、全てがマイナスに。	従業員出勤状況による売上影響	食堂・レストラン

令和2年9月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 43.5	 ▲ 25.0	 ▲ 66.6	 ▲ 53.5	 ▲ 11.7
CCI—LOBO	 ▲ 56.5	 ▲ 30.7	 ▲ 68.3	 ▲ 52.5	 ▲ 67.8

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 37.6	 ▲ 31.2	 ▲ 58.3	 ▲ 39.2	 ▲ 11.7
CCI—LOBO	 ▲ 55.8	 ▲ 29.0	 ▲ 68.1	 ▲ 50.5	 ▲ 66.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 40.0	 ▲ 37.5	 ▲ 62.5	 ▲ 46.4	 ±0.0
CCI—LOBO	 ▲ 51.4	 ▲ 26.7	 ▲ 60.3	 ▲ 47.9	 ▲ 63.4

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 22.3	 ▲ 6.2	 ▲ 16.6	 ▲ 39.2	 ▲ 17.6
CCI—LOBO	 ▲ 20.5	 ▲ 25.6	 ▲ 17.4	 ▲ 18.7	 ▲ 22.0

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 1.1	 25.0	 ▲ 33.3	 17.8	 ±0.0
CCI—LOBO	 0.9	 23.3	 ▲ 11.5	 7.8	 ▲ 4.4

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 17.6	 ▲ 18.7	 ▲ 37.5	 ▲ 14.2	 5.8
CCI—LOBO	 ▲ 27.6	 ▲ 6.8	 ▲ 34.5	 ▲ 28.3	 ▲ 39.0

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (9月速報)

調査期間：2020年9月11日～17日

調査対象：全国の336商工会議所が2,748企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、持ち直しの動きもあるも、力強さ欠く。先行きは慎重な見方続くも、回復に期待感

9月の全産業合計の業況DIは、▲56.5と、前月から+2.5ポイントの改善。新型コロナウイルスの影響により、巣こもり消費が拡大する中、ネット通販やデリバリーを活用する消費者の増加も追い風となり、飲食料品の売れ行きが堅調だった。

また、自動車関連で、経済活動をいち早く再開した中国向けの生産が持ち直しつつあるほか、建設業では台風などの災害復旧を含む公共工事の下支えが続く。一方、消費者のマイナード低下や観光需要の低迷から、飲食・宿泊をはじめ関連産業の経営は依然厳しく、コロナ対策のコスト増を指摘する声も聞かれる。中小企業の景気感

は持ち直しの動きがみられるものの、力強さに欠く状況が続いている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲44.0（今年比+12.5ポイント）と改善を見込む。コロナ禍の影響

響長期化により、売上回復の見通しが立たない中、助成金等の政策効果が剥落したあとの急激な業績悪化を懸念する経営者も多く、先行きの不透明感から、慎重な見方が続く。一方、政府による旅行喚起策の東京追加や、順次開始される飲食業支援策による需要喚起への強い期待感がうかがえるほか、欧米向けを含む自動車関連、5G向けなど半導体関連の持ち直しを期待する声も聞かれた。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、小売業は横ばい、その他の業種は改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「新型コロナウイルスの影響により、取引先から2×4住宅用の木材価格の値上げ要請があった。建築費のコストアップが見込まれるほか、割高となることで消費者が新築を控える懸念があるため、他の工法を検討している」(建築工事業)、「民間の大型設備投資案件は減少しているものの、焼却処理施設や市民会館の新築など、公共工事が牽引している。また、一部では持ち家・借家にも動きが始めている」(一般工事業)

【製造業】「自動車向けは、新型コロナウイルスの感染が拡大する前の3月頃の水準まで回復。11月までは土曜も稼働して対応する」(工業用プラスチック製品製造業)、「イベントやセールの中止により、小売業から販促用のPOP商品やのぼり等の引き合いが激減。売上回復を図るため、新型コロナウイルスの感染防止対策製品の開発を進めている」(紙製容器製造業)

【卸売業】「飲食店・ホテル向けは厳しいものの、消費者の内食需要の拡大に牽引され、スーパーや量販店からの引き合いは好調」(農産物卸売業)、「顧客であるメーカーの業績が悪化しており、コスト増加分の価格転嫁がしづらい。また、先行きの不透明感が増す中、現在の状況が長期化すれば、当社でも採用や設備投資に慎重にならざるを得ない」(一般機械器具卸売業)

【小売業】「内食需要の拡大から、総菜や生鮮食品、冷凍食品など、飲食料品の売れ行きが好調を維持しており、普段であればピークを迎えるはずだった秋物衣料の不振をカバーしている」(総合スーパー)、「台風9号、10号の影響により、消費者が外出を控えたことに加え、台風通過後は店舗や周辺の清掃作業などに追われ、営業することができず、売上が大きく落ち込んだ」(衣料品小売業)

【サービス業】「観光客は依然として少ないが、Go Toトラベルを利用した宿泊予約が入ってきている。東京が対象となる10月以降、一段の売上増を期待したい」(宿泊業)、「売上が前年の半分にも届かない中、給付金・助成金だけでは足りず、借入でしのいでいる状況。支援策がなくなれば、経営はより一層厳しくなると懸念している」(飲食業)

【サービス業】「観光客は依然として少ないが、Go Toトラベルを利用した宿泊予約が入ってきている。東京が対象となる10月以降、一段の売上増を期待したい」(宿泊業)、「売上が前年の半分にも届かない中、給付金・助成金だけでは足りず、借入でしのいでいる状況。支援策がなくなれば、経営はより一層厳しくなると懸念している」(飲食業)

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
4月	▲60.4	▲29.3	▲63.2	▲66.7	▲64.0	▲71.2
5月	▲65.8	▲37.7	▲69.9	▲62.9	▲70.0	▲77.6
6月	▲62.8	▲35.0	▲72.6	▲61.6	▲60.4	▲73.4
7月	▲59.3	▲34.8	▲70.6	▲59.5	▲53.4	▲68.4
8月	▲59.0	▲34.9	▲69.6	▲56.7	▲53.2	▲70.2
9月	▲56.5	▲30.7	▲68.3	▲51.2	▲52.5	▲67.8
見通し	▲44.0	▲28.1	▲43.7	▲39.0	▲49.8	▲52.5

柏の景気情報 (令和2年9月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

調査期間：令和2年9月25日～10月9日 調査対象：柏市内132事業所及び組合にヒアリング、回答数90件

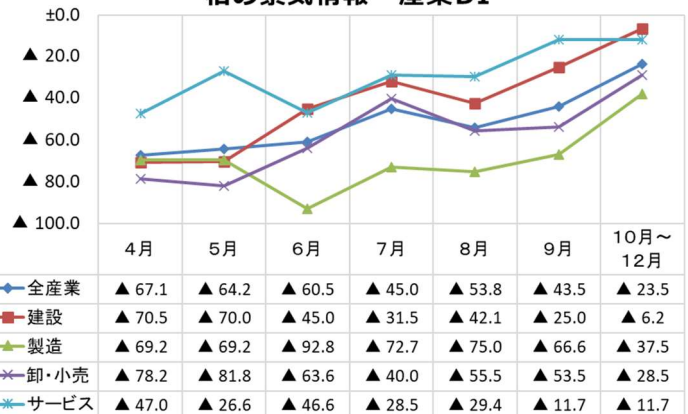
全産業DIは改善するも、新型コロナウイルスの影響による厳しさは残る。景況感改善を期待する声が多い

9月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲43.5(前月水準▲53.8)となり、マイナス幅が10.3ポイント縮小、全業種で改善となった。

新型コロナウイルス感染再拡大が若干の落ち着きを見せてきたことから、外出自粛ムードが多少緩和している様子。公共工事は堅調で、食料品も好調を維持している。しかし、業種によって回復に差が見られ、製造業は安定した受注が見込めず先行き不透明な状況。小売業は食料品を除く消費に力強さは感じられず、飲食業は年末に向けた宴会需要の見込みが薄い。

先行き見通しDIは▲23.5(今月比+20.0)であり、政府の需要喚起策「Go Toキャンペーン」等により景況感の改善を期待する声は増している。

柏の景気情報・産業DI



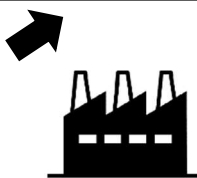
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「大型物件は受注できたが、ハウスメーカー等の継続的な案件が減少。定期的案件も、受注が2か月ほど遅れている(電気工事)」、「人手不足が解消できず、仕事の発注はあるが断っている状態(とび)」、「コロナ禍でも工事は例年並。公共工事の発注数は昨年よりも多い。学校関係は少なくなった(塗装工事)」、「修理等、細々とした問い合わせが増えてきた。台風に備えて窓回りや、耐震の問い合わせも微増している(一般土木建築工事)」



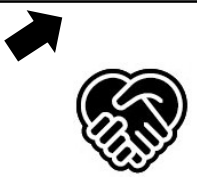
製造業

「年内は雇用調整助成金や持続化給付金で雇用を維持できそうだが、しっかりと利益を生み出さなければ来年は分からない。社内体制を整え、確実に収益が出るよう改善を進める(金属製品)」、「化粧品容器、医療品容器共に回復のめどが立たず(プラスチック加工)」、「今後「Go Toイベント」「Go To商店街」に期待(印刷)」、「9月は生活雑貨メーカーから特注があり伸びたが、来月以降は不透明な情勢が続くと予想(プラスチック製品)」、「一部社員の手が空く状態で、研修会等で新規スキル教育を実施。仕事量の確保が課題(金属加工機械)」、「観光地の土産商品の状況が悪いが、国による経済対策を期待(鉄鋼)」、「細かい仕事は始まったが固定経費まで達せず。資金繰りは継続して悪化(印刷)」、「社内のネット環境を見直しデジタル化を図るも、トラブルが頻発。ハード、ソフト両面の大規模更新が必要となり、思わぬ設備投資が必要になった(自動車付属品)」



卸・小売業

「客数は減少する一方、客単価は上昇の傾向で、売上は前年比▲20%、入店客数▲25%。10月以降は好転を見込むが楽観できない(百貨店)」、「テイクアウトは伸びるも、イベント特注は落ち込んだまま(飲食料点小売)」、「食品は依然として売上が伸び、経常利益も良い反面、関連会社の飲食店は9月で閉店(各種食料品小売)」、「市内飲食店の売上が激減した影響で15~20%の売上減。取引の中心は量販店、百貨店テナントの小売に。補助金、融資を申請し当面の資金繰りに支障ないが、低金利でも借入が増える事が不安(農畜産物・水産物卸売)」、「ほぼ前年同期並。コロナ感染者情報が来店者数にすぐ影響(各種食料品小売)」、「昨年は増税前の駆け込みで高額品が売れたため、昨年からの落ち込みが大きい。衣料品・服飾品は回復せず、食料品は好調。飲食は回復傾向(各種商品小売)」、「正社員募集に、有資格の50歳前後の応募が殺到した(建築材料卸売)」、「連休は人出が増えていたが、衣料品は変わらず厳しい状況。食品は贅沢品も売れる(大型小売店)」、「毎年9月は「創業祭」としてイベントを開催していたが今年は中止に。年末は縮小しても行いたい(各種商品小売)」



サービス業

「IT関連技士に加え通信工事技術士が足りず、人手不足は深刻(ソフトウェア)」、「家賃支援給付金は要件が厳しい。見直しを求む(不動産賃貸)」、「ドライバー不足が深刻。運賃の適正化を図る事が急務(一般貨物自動車運送)」、「例年9、10月は売上が上昇していたが、今年は横ばい。顧客数の増加と単価の上昇が課題(広告代理)」、「8月頃から新規入会者が増えたが、昨年同レベルまで回復せず(学習塾)」、「Go To Eatキャンペーンによる客数の回復に期待するが、宴会予約がない分、前年より売上が大幅減少するのは避けられない(日本料理)」、「従業員が揃えば最後まで販売を続ける事ができるが、欠員が出ると生産が間に合わず一部販売が終わってしまい、全てがマイナスに(食堂・レストラン)」、「現在は出前館を利用しているが、自社でデリバリーできるよう調整中。軽自動車であればパートに配達をお願いできる(食堂・レストラン)」

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲43.5に対し、「CCI-LOBO」が▲56.5で柏の方がマイナス幅が13.0ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。